

「彼らは我々の言語のために戦った」

フランス系カナダ人の若者における歴史的ナラティブとナショナル・アイデンティフィケーション

They fought for our language:

Historical narratives and national identification among Young French Canadians

担当:川口広美(広島大学大学院)

hkawaguchi@hiroshima-u.ac.jp

- 著者情報

Stéphane Lévesque

カナダ・オタワ大学教授、Virtual History and Stories Lab所長。学生の歴史的思考、歴史的意識、物語の能力について広く執筆している。バーチャル・ヒストリー・ラボの創設者として、デジタル・ヒストリーと教育におけるテクノロジーの統合にも関心を持ち、研究と教育を行っている。

著名な著作:Lévesque, S. (2008). *Thinking historically: Educating students for the twenty-first century*. University of Toronto Press.

Lévesque, S. (2005). Teaching second-order concepts in Canadian history: The importance of "historical significance". *Canadian Social Studies*, 39(2), n2.



Jocelyn Létourneau

ケベック市にあるラヴァル大学の歴史学教授。プリンストン高等研究所(ニュージャージー州)とリヨン大学の元フェローであり、共同体・大学間研究アライアンス「Canadians and their Pasts」の主任研究員を務めている。

著名な著作:den Heyer, K., Laville, C., Lee, P., & Letourneau, J. (2004). *Theorizing historical consciousness*. University of Toronto Press. Létourneau, J. (2004). *History for the future: Rewriting memory and identity in Quebec* (Vol. 16). McGill-Queen's Press-MQUP.



- 重要用語

Narratives: ナラティブ、物語

Narrative competence:ナラティブ・コンピテンシー(歴史的なナラティブを理解し作る力)

Nation:国家、ネーション

Historical orientation:歴史的な方向付け

- 議題

・日本においては、日常で語られるナラティブは学校のナラティブと違うか？地域的なナラティブはあるか？それは国家的なナラティブとどう違うか？(例:小国だけど、工夫して大国になった)

- 内容・要約

1. イントロダクション (pp.142-144)

- ・歴史＝市民の形成や国民のアイデンティティの構築に中心的な役割
- ・従来のテスト:事実上の知識を単純想起するもの:「歴史意識」を調査できていない
- ・「歴史意識」を尋ねるための問い:「カナダ人の若者は集合的な過去についてどのようなストーリーを語るのか」「これらのストーリーの中で、アボリジニや女性、「他者」はどのように位置づけられているのか」「彼らの考えや歴史的な思考法に地域主義(regionalism)やアイデンティティはどのようなインパクトを与えているのか」「学校教育は国家的なナラティブの伝達にどのような役割を果たしているのか」
- これを通して、「過去・現在・未来の集合的に重要な側面にどのように対応するかを形成する基礎となる精神的な構造」(Rusen)となる
- ・オリエンテーション(方向付け)とは、「個人の人生よりも大きな時間的全体」を参照して、個人の歴史的アイデンティティを形成する:「ナラティブ・コンピテンス」に注目
- ナラティブは学校だけでなく多様な情報源から構築、コミュニティの一員として構築される
- ・調査の目的:フランス系カナダ人のusable pastの物語を調べたい
- オンタリオ州とケベック州の若者に「あなたが知っているように、フランス系カナダ人の歴史を述べてください」と尋ねる
- ・この調査によって、歴史的ナラティブ・歴史意識・アイデンティティの関係性を理解する

2. 理論的フレームワーク(pp.144-145)

- ・Letourneauの研究:フランス系カナダ人が公的なカリキュラムの持つナラティブとは異なる
- しかし、地域的特性についてはあまり配慮がなかった。
- ・ナラティブ・コンピテンスを用いる意味
- ① 「人類経験の根本的な構造」を通して、歴史意識を調べることができる (カー:ナラティブは現代を生きていくうえでの過去の経験を語る上で最も基本的なツールだ)
- ② ナラティブは、親しみやすいツールであるため、調査対象者は他の文化的ツールを学ぶ必要がない
- ③ 子どもたちが描き出す絵は「big picture」となり、学校外の多様な事例を入れやすい

3. 研究方法(pp.145-146)

- ・カナダのオンタリオ州とケベック州で実施(どちらとも、最大のフランス系カナダ人がいる)
- ・多様な地理的状况にいる13の高校を選択(635名、73%がフランス語が第一言語と回答、46%がアイデンティティがケベック人、33%がカナダ人、11%がフランコ・オンタリア人)、国史の必修(10~12年生)を終了した生徒からの自発的な参加
- ・教科書やインターネットなし、好きな形式や方法で、60分間でフランス系カナダ人の物語を作ることを求

めた

- ・分析は帰納的なコーディングを実施

4. 結果(pp.146-155)

(1)人物のパンテオン

- ・女性の名前が3名だけ:マルグリット・ブルジョワとデスロッグ姉妹だけ
- ・フランス語圏の入植者の祖先:ジャン・タロン、エチエンヌ・ブリュレ
- ・植民地で活躍したイギリス人将校:ジェームズ・ウルフ将軍(悪い)、ジェームズ・マレー総督(慈悲深い)
- ・フランス系カナダ人の運命に直接影響を与えたとと思われる数人の政治家

(2)フレンチ系カナダ人の「悲しみ」

・生徒たちのナレーション:カナダの歴史の幅広い期間をカバーしているが、すべての歴史的出来事を記録してはいない

・表10.2の結果は、学生の物語に見られる支配的なキーワード。フレンチ・カナダの「悲しみ」と呼べるようなカナダの歴史上の重要なエピソードが繰り返し強調されている

・生徒たちの物語の中で、これらの小さな絵(あるいは神話)は、フランス人、イギリス人、アボリジニ、土地、言語、学校、戦争や戦い、権利などを指している。英語圏と「フランス語圏」は、カナダの支配的なグループを代表する二項対立の文化的存在として、生徒たちのテキストに描かれています。ほとんどの場合、彼らはアメリカの土地の支配権をめぐる争いの中で結びついている。

例:「フランス人とイギリス人は1600年代から1800年代にかけてアメリカに最初に移住した」。「何世代ものフランコフォンの後、ケベックはイギリスの手に落ちる。しかし、アメリカでの独立戦争の後、多くのイギリス人忠誠者が後にカナダとなる地に移住する」

・植民地時代の過去を扱うとき、生徒たちの語り口にはアボリジニ(またはファースト・ネイションズ)が大きく登場する。物語の中でのアボリジニの役割は、ほとんど植民地時代の過去に限定されている。その後の時代にファースト・ネイションズについて言及されることはほとんどない(唯一の例外は、メティスの指導者であるルイ・リエルだけ)

・「戦争」と「戦い」という2つの概念は、生徒たちが描く過去のイメージの中心となっている。この二つの概念は、カナダにおけるフランス語の歴史の中の対立する瞬間(征服、反乱、世界大戦、徴兵制、言語権とフランス語学校の廃止)と、英語による支配と同化に対抗するフランス語圏のコミュニティの意志を表す役割を果たしている。

(3)「la Survivance(サバイバル・生存)」のテンプレート

・文脈の中でのキーワードの分析から発見されたのは、学生の語りの中に繰り返し出てくる大局的なテンプレート(by Wertch)の表現

→「la survivance」(生存)という概念は、フランス系カナダ人の歴史ではよく知られており、英語系カナダ人や英米人のヘゲモニーに直面しながらも、フランス語圏の言語や文化が継続的かつ必要に応じて生存している。

・1970年代までのフランス系カナダ人の歴史の中心であった「la survivance」(生存)は、現代の一般的

な歴史書においても、メタファーや暗黙の解釈の枠組みとして存在している

・「la survivance」のテンプレートは、以下の4つのエピソードや神話を中心に構成されている

- ① 探検家の到着とニューフランスの設立。北米におけるフランス系の黄金時代。
- ② イギリスによるニューフランスの征服と陥落。フランス系カナダ人を同化させようとしたり、意に反した行動を強要したイギリス系カナダ人の「抑圧者」(フランス語教育の廃止、世界大戦中の一般徴兵制など)によって、カナダにおけるフランス語圏とその文化が切り捨てられた。
- ③ 20世紀に入ってから、フランス語圏の権利の「大義」のために戦ったさまざまな人物(ベアトリスとダイアン・デスロッグ、ジャン・レサージュ、ルネ・レヴェスクなど)に導かれて、近代フレンチ・カナディアン・ナショナリズムが目覚めたこと。
- ④ 将来の不確実性。ナショナリズムの勢いは衰えつつある。未来は不確かで、恐らく厳しい状況となる。フランス語圏のコミュニティが生き残るためには、警戒することが必要である。

・物語のテンプレートは、フランス系カナダ人のコミュニティでは、過去と現在の両方の国の出来事を理解しようとする際にしばしば呼び起こされるが、地域差がある

例)ケベック州の学生は、ジャック・カルティエ、新フランス、毛皮貿易、戦争・征服に言及する傾向が強い。

→両グループとも、フランス系カナダ人の歴史を構成するために、暗黙のうちに共通の物語のテンプレートに言及。

・オンタリオ州とケベック州では学校歴史としてはla survivanceを放棄しているが、矛盾している

(4)過去との同一化

・本研究の結果は、学生の集団的同一化の感覚が、この大きな絵のテンプレートの使用に影響を与える

・実際、以下の表10.3に示すように、自分の住んでいる地域の言語コミュニティ(ケベック人、フランコ・オンタリオ人など)を強く意識すればするほど、彼らの物語はla survivance(生存)のパターンを踏襲し、征服、戦争、国家、同化、防衛、抵抗の概念を頻繁に使用した。

・フランス系カナダ人(またはケベック人、フランコ・オンタリオ人)であることを強く認識している学生は、集合的記憶の神話から得られるテンプレートをより容易に採用していた。

→これらの学生は、過去の出来事や先人について話すときに、「私たち」や「私たちの」という代名詞を使う傾向がある。(意図的に遠い過去への帰属意識を確立し、「彼ら」の経験を「私たち」の経験に変え、過去の変化を現在の国の変化に結びつけている)

・共通のナショナルカリキュラムがないにもかかわらず、ケベック州とオンタリオ州の参加者の間でこのパターンが非常に多く見られたことは、この物語のテンプレートがフレンチカナディアンのコミュニティでいかに強力であることを示している。(実際、正式な歴史教育を受けたことで、自分の物語に強い影響を受けたと答えた参加者は、わずか38%)

→カナダの学校歴史は、生徒の歴史意識を形成する一連のエージェントのひとつではない!

・私たちの発見は、学習者のアイデンティティの感覚や意味のある実生活の経験が、歴史の解釈の仕方に強く影響するため、フォーマルな歴史教育とインフォーマルな歴史教育の関係や、歴史とアイデンティティの関係を無視できないことを示唆している。

5. 結論(pp.155-157)

・私たちの研究は、メディアや政治家の関心を引くもの、すなわちカナダの歴史に関する学生の貧弱で断片的な知識とは大きく異なっている。私たちの研究結果によると、生徒たちは高校を卒業するまでに、重要な歴史的情報を蓄えており、地域によって異なる過去の集団の小さな絵を手に入れている。興味深いことに、これらの小さな絵は、「la survivance」のような物語のテンプレートで構成された「大きな」絵の一部として描いている。

・HowsonとShemiltが指摘するように、これらのテンプレートは、まさに「知識のフレームワーク」として機能する有用な認知ツールである。(1)過去からの情報を意味づけのためのわかりやすい構造に整理する、(2)因果関係と継続性-変化という二つの概念で時間の次元(過去、現在、そして想定される未来)をつなぐ、(3)過去の経験を現代の生活の目的のために動員する。

・しかし、物語のテンプレートには限界がある。実際、あるテンプレートを他のテンプレートよりも優先的に使用することは、特定の歴史的ナラティブの選択、構造と配置、および品質に直接影響を与える。これらの物語は、人々の方向付けやアイデンティティに影響を与える文化的ツールである。

・私たちはカナダの教育の現状は満足できるものではない。

・4つの示唆

- ① 歴史教育者は学生の事前の物語的知識を考慮に入れるべき。同様に重要なのは、事前の知識は学校教育に限らず、さまざまな力によって形成される
- ② 歴史教育者は物語の構築された性質も明らかにして教えなければならない。多くの場合、学生はナラティブ(講義、教科書、映画、口述など)を通して歴史を学ぶ。
- ③ 歴史教育者は、生徒に特定の国のアイデンティティを持たせるのではなく、様々な歴史的経験や人々を理解すること、つまり歴史的共感力を身につけるよう指導すべきである。開放的で柔軟で多元的な集団的愛着の形態を促進することができる。
- ④ 歴史教育は、周縁化されたグループの生徒を含め、より多様でバランスのとれた個人的な経験を拡大して提供すべきである。フランス系カナダ人の歴史的経験については、学生が分析・研究すべき様々な解釈がある。しかし、歴史を叙述することは、歴史意識の形成に不可欠な役割を果たす。そのため、学生は物語の能力を身につけるために必要な知的ツールを徐々に身につけていく必要がある。学生が「歴史を行う」機会を与えられなければ、授業で学ぶ形式的な歴史叙述は、彼らの先入観に基づく過去のナラティブにほとんど影響を与えなくなってしまうためだ。